

## 西郷隆盛小論

平野 雅美

### 坂本竜馬の言葉

「西郷という男は大太鼓のような男である。小さく叩けば小さく鳴り、大きく叩けば大きく響く。もしバカなら大バカ、利口なら大利口である」。

これは日本の不思議な役柄なので、その原型は天皇である。黙って座っている。その前で知恵が空転する。そして最後のところでひとつの決断だけをこの人は下してくれる。そういう人なんだろうと思われる。

### 川路利良の言葉

西郷のことを「まるで桜島のようなんだ」といった。

桜島は夕方になって太陽が空と海を染めると、どんな繪の具でも描けないくらいに変化する。しかし曇り日や雨の日はじつにつまらなくて、ただの木偶でぐの坊が無用に空間を占めているにすぎない。

西郷はその桜島とまったく同じ。

鹿児島での西郷の評価・人気は格別のものである。十人のうち九人までが誉めちぎる。日本における天皇以上である。

私心が全くない。欲得がない。人のため、国のため、いつでも命を投げ出す。詩人であり、大思想家である。友をうらぎらない。約束を守る、ぜいたくをしない。人を隔てず皆平等である。そしてその全体像が魁偉で人間離れしている。別格である。

対するに人気の悪い大久保利通だが、殆んどの鹿児島県人が東京に出て、大久保の敷いた薩摩閥(主として警察、文部畑)の恩恵をうけている。鹿児島人は、むしろ悪くいう、大久保的要素、それも次元の低い(偉くなりた。有名になりた。威張る。策をろうす。強いものに弱い)氣質をもっているのではないか。もともと西南の役と第二次世界大戦で優秀な人材は、ことごとく戦死したといわれているが(鹿児島出身の熱烈な西郷信者の話)、そうなると西郷にも東郷にも責任の一端はある。

西郷隆盛の生き方と類似している日本の歴史上の人物をあげるなら、日蓮上人、大石内蔵助、山本五十六、双葉山、石橋湛山、等々である。自己の信念を貫き通したという意味で

ある。次元と生き方はやや異なるが小沢一郎もその系統につながるのではなからうか。

西郷の考え方、そして人生は、階級社会をなくし、貧富の差なく、四民平等の社会をつくるということであった。それには武力による革命・倒幕がなんとしても必要であった。ところが皮肉なことに、相手方の幕府の総帥である徳川慶喜は優れた行動力と明晰な頭脳をもって敵味方から恐れと期待を一身にうけながら、抗し難い時勢をいち早くよんで、みずから幕府を葬り去った。そして誰よりも勤皇家であり錦の御旗に抗すことを恐れた。維新の功労者といえば世上・西郷・大久保・木戸・岩倉をあげるが、無血革命をやりとげた徳川慶喜こそ最大の功労者といえるであろう。

西郷としては、武力による倒幕ができず欲求不満のまま、新しい近代国民国家（明治維新）が出来上がったのである。ところが新しくできた国家は西郷が期待していた理想社会とはまったくかけはなれていた。薩長土肥を中心とする全く学識も哲学もない下級武士による支配であり、贅沢三昧、やりたい放題。西郷は最早、自分の居る場所はないと新政府に幻滅し、地位も名誉も全てを棄てて鹿児島に帰っていった。ところがみんなが放っておかない。なんといつても地元で

の西郷人気はすぎましい。鹿児島で一大王国ができ上がる。しかも日本各地から新政府で優遇されない不平不満の旧武士族がよってくる。人に推され頼られると動くのが西郷である。そして策謀家大久保の作戦にひっかかり、ついに行動をおこし、西南の役となる。しかも西郷は最後まで大久保との友情を信頼していた。明治維新によって西郷の役目は終わったのである。事のよしあしは兎に角、西南の役を経て、やっと新しい近代国民国家日本が生まれたともいえよう。

#### 大久保利通

鹿児島ではまったく人気がない。

血が通っていない。平気で昔の友をうらぎる。権力・権威志向である。そのためには、あらゆる策を弄す。目的のためには手段を選ばない。なによりも、かつての兄貴分であり、信頼しきっている西郷をだまし、追いつめ、死にいたらしめた非情さ、どうしても許せない。云々。

しかし、見方を変えると、新しい近代国民国家日本の組織づくり、レールを敷いたのは、大久保利通である。成功した革命家は日本では評判がよくない。

義経が誉められて頼朝はけなされる。

家康は秀吉や信長より評判が悪い。

なぜなら彼は最後に勝っているからだ。

相手があまりにも大きすぎる西郷隆盛だけに大久保も気の毒な面がある。

歴史の皮肉であろうか。

大久保の子息が牧野伸顕であり、吉田茂の岳父にあたる。吉田の娘の子息が麻生太郎である。麻生は大久保の末裔になる。

松岡洋右は、岸信介、佐藤栄作兄弟の叔父であり、安倍晋三の祖先になる。DNA（遺伝子的なもの）を感じるのには穿ち過ぎか。

西郷隆盛の思想人物像は分かり難い。近代日本史の最大の伝説である。

一方大久保利通は、国権を愛し、近代国民国家日本の組織作りをしようとした。それには、西郷と西郷をとりまく諸々の事象がすべて邪魔になった。それには西郷に消えてもらうしかない。

それが西南の役になり、結果として大久保自身も紀尾井坂

で露（暗殺）と消えた。

歴史にイフ（若し）ということが許されるなら、大久保は西郷に対する遇しかたを間違えた。

そこに永遠の悲劇が続く。

・寄稿者プロフィール

昭和四年、元別府市議会議長平野國松の次男として北浜で生まれる。北小学校、旧制別府中学（現・鶴見丘高校）、旧制第七高等学校（鹿児島）、東京大学法学部卒業。富士銀行に入行、取締役福岡支店長、山陽国策バルブ工業専務取締役、千代田紙業社長、別府扇山ゴルフ場社長を歴任。江戸時代豊後横灘（別府）の大庄屋、堀助之丞の孫にあたる。

（外山健一）